

授業科目名	保育実践演習	教員名	山下 愛実 劉 一杰	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
科目番号	ENS402	配当年次	4年後期		幼稚園教諭	選択
授業形態	演習				保育士	必修
単位数	2単位				こども音楽療育士	
科目					情報処理士	
施行規則に定める科目区分						
一般目標	<p>1. 保育に関する現代的課題について、現状を分析、考察、検討し、問題解決のための対応や判断方法等について学びを深める。</p> <p>2. 4年間を通じた自らの学びを振り返ることを通して、保育者として必要な知識や技能、専門職としての倫理観等が習得・形成されたことを確認し、自己課題を見出す。</p> <p>3. 保育者として勤務することを具体的にイメージしながら将来の展望を描き、保育者としての資質向上を図り、保育職に従事することへの自覚と意欲を高める。</p>					
到達目標	<p>1. 履修科目内容や実習等の4年間を通じた自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識や技能、倫理観等が習得されていることを言語化し、自己の課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等の習得に努めることができる。</p> <p>2. 保育に関する現代的課題について、現状を分析、考察、検討することができる。また、保育実践に関する領域横断的な専門知識を習得し、問題解決のための対応や判断方法等について多角的に検討することができる。</p> <p>3. 保育者として勤務することを具体的にイメージしながら将来の展望を描くことができる。また、保育者としての資質向上を図り、保育職に従事することへの自覚と意欲が認められる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本演習は、「5. 教育実践力を身につけている、6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	<p>自己の課題を自覚し、不足している知識や技能等を必要に応じて補い、保育職に従事するうえで必要な資質・能力等の向上に努める。具体的には、保育者の役割や職務内容、子どもに対する責任や倫理、社会性や対人関係能力、家庭や職員間の連携、関係機関との連携、子育て家庭の支援等について、グループワークや事例検討等を活用し、実践の高度化を目指す。また、保育の関連領域に関わる外部の専門講師による講義を踏まえて、グループ討論を行い、多角的に検討することで、児童理解についての理解を深める。さらに、現場体験を行うことで、現場で臨機応変に実践できる資質・保育実践力等の向上や対人関係能力の向上につなげる。アクティブラーニングとして、振り返り、個別の質疑応答、グループディスカッションなどを取り入れる。</p>					
履修条件・注意事項	保育士資格取得のための必修科目である。					
授業計画	<p>第1回：「保育実践演習」の概要説明・学修の振り返りと今後の課題 「保育実践演習」の目標、内容、評価の方法を理解し、準備物等について確認する。履修カルテのチェックと自己分析を行う。（目標1）</p> <p>第2回：保育に関する現代的課題の探究① 現在の保育に関わる課題（少子化、長時間保育、子育て支援等）について検討する。ディスカッションを取り入れることで、多角的に検討し、考察を深める。（目標2）</p> <p>第3回：保育に関する現代的課題の探究②（保護者との連携と子育て支援） 外部講師より、保護者との連携や子育て支援の実態とその課題について検討する。また、子育て支援における保育現場の役割について多角的に検討することで理解を深める。（目標2）</p> <p>第4回：子どもをめぐる諸課題へのアプローチ 外部講師より、児童虐待に関わる課題について検討し、関係機関と連携しながら子ども・保護者といかに理解し、関わり支援するのにかについて、事例検討も交えて、理解を深める。（目標2）</p> <p>第5回：保育者の職務内容① 乳幼児理解を深める基本的な視点を確認する。また、保育者の職務内容（特に、幼稚園指導要録や保育所児童保育要録等）について学び、自身の知識・技能の向上につなげる。さらに、保幼小連携・接続の課題を踏まえ、課題解決に向けた取り組みを検討する。（目標1、3）</p> <p>第6回：保育者の職務内容② 保育者の職務内容（特に、保護者との関わり、連絡帳等による家庭との連携、連絡帳の書き方の基本）について学び、自身の知識・技能の向上につなげる。子育て支援の課題を踏まえ、課題解決に向</p>					

	<p>けた取り組みを検討する。(目標1, 3)</p> <p>第7回:4年間の学修の振り返り①</p> <p>履修科目内容や実習等の4年間を通じた自らの学びを履修カルテも用いて振り返り、経験したことを言語化し、意味づけを行う。自己の課題を見出し、不足している知識や技能等の習得に向けて取り組むことを明確にし、学び続ける姿勢を身につける。(目標1, 3)</p> <p>第8回:4年間の学修の振り返り②</p> <p>履修科目内容や実習等の4年間を通じた自らの学びを履修カルテも用いて振り返り、経験したことを言語化し、意味づけを行う。自己の課題を見出し、不足している知識や技能等の習得に向けて取り組むことを明確にし、学び続ける姿勢を身につける。(目標1, 3)</p> <p>第9回:4年間の学修の振り返り③・発表</p> <p>履修科目内容や実習等の4年間を通じた自らの学びを履修カルテも用いて振り返り、経験したことを言語化し、意味づけを行った内容について、発表を行う。卒業後の自身のキャリアを具体的にイメージしながら展望をもつ。(目標1, 3)</p> <p>第10回:保育環境についての学びを踏まえた保育の構想①</p> <p>履修科目内容や実習等の4年間を通じた自らの学びを活かしながら、主体的に教材研究を行い、多様な意見を踏まえて、指導案を作成する。特に、環境を通じた教育・保育の理解を踏まえた保育構想力を活かす。グループワークを取り入れ、多角的に検討できるようにする。(目標2, 3)</p> <p>第11回:保育環境についての学びを踏まえた保育の構想②</p> <p>履修科目内容や実習等の4年間を通じた自らの学びを活かしながら、主体的に教材研究を行い、多様な意見を踏まえて、指導案を作成する。特に、環境を通じた教育・保育の理解を踏まえた保育構想力を活かす。グループワークを取り入れ、多角的に検討できるようにする。(目標2, 3)</p> <p>第12回:保育環境についての学びを踏まえた保育の構想③・模擬保育</p> <p>履修科目内容や実習等の4年間を通じた自らの学びを活かしながら、主体的に教材研究を行い、多様な意見を踏まえて、指導案を作成する。特に、環境を通じた教育・保育の理解を踏まえた保育構想力を活かす。グループワークを取り入れ、多角的に検討した内容について模擬保育を行い発表する。(目標2, 3)</p> <p>第13回:保育環境についての学びを踏まえた保育実践①</p> <p>構想した保育内容を実際の現場で実践することで、実践力を向上させる。実践後の振り返りを通して、学びの定着と自己課題の明確化を図る。(目標2, 3)</p> <p>第14回:保育環境についての学びを踏まえた保育実践②</p> <p>前週の実践の反省点の改善を図り、構想した保育内容を実際の現場で実践することで、実践力を向上させる。実践後の振り返りを通して、学びの定着と自己課題の明確化を図る。(目標2, 3)</p> <p>第15回:「保育実践演習」のまとめ</p> <p>履修カルテをもとに、学びの振り返りをし、意図した学習ができたか評価する。保育に関する知識の習得及び保育実践力向上の成果を確認し、これからの保育者としての課題を見出す。(目標1, 3)</p>
授業外学修時間の確保について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習:配布資料の確認、前回の講義内容の復習、提示する課題の作成等</p> <p>事後学習:講義内容の復習、振り返り・課題やレポート作成等</p>
学生に対する評価	<p>毎回のレポート・課題提出80%、発表20%</p> <p>なお、レポート・課題等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに口頭で行う。
テキスト	<p>厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館</p>
参考書・参考資料等	<p>適宜資料を配布する。</p>
担当者からのメッセージ	<p>本授業は、これまでの「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるものです。積極的に授業に参加する中で、子どもの育ちの豊かさや子どもの育ちを支える保育の面白さに触れ、子どもへの関心や保育の理解が深まることを期待します。</p>
オフィスアワー	<p>劉一杰(毎週金曜日 9:05~10:35(メール等でアポイントを取ること))</p> <p>山下愛実(毎週金曜日 9:05~10:35(メール等でアポイントを取ること))</p>
備考	